

研究・調査報告書

報告書番号	担当
392	滋賀医科大学社会医学講座公衆衛生学
題名 (原題/訳)	
<p>Risk of pancreatic cancer by alcohol dose, duration, and pattern of consumption, including binge drinking: a population-based study. アルコール量、短時間大量飲酒を含む飲酒パターンなどによる膵臓癌の危険性についての集団ベースの研究</p>	
執筆者	
Gupta S, Wang F, Holly EA, Bracci PM.	
掲載誌 (番号又は発行年月日)	
Cancer Causes Control. 2010 Jul;21(7):1047-59. Epub 2010 Mar 27.	
キーワード	
すい臓がん、アルコール関連疾患、ケースコントロールスタディ、リスク、疫学、飲酒、暴飲	
<p>要 旨</p> <p>目的： アルコールの消費量は、膵臓癌の危険因子 (PCA) とされるが、飲酒の特性に関連するリスクの明確化が不足している。我々は、サンフランシスコのベイエリアの人口ベースのケースコントロール研究 (532 例、1701 コントロール) のアルコール消費量と PCA との関連を調べた。</p> <p>結果： 人口ベースのコントロールは、5年間をカテゴリーとする、がん登録の急速な症例確認によって識別される場合に居住地の郡内の性別、年齢と一致した。短時間大量飲酒 (1日5杯もしくはそれ以上) を含む詳細なアルコール消費量データは、対面のインタビュー中に収集された。結果はオッズ比 (OR) と 95%信頼区間は (95%CI) をロジスティック回帰分析を使用して計算されている。用量、期間、飲酒のパターンに応じて男性の間で増加した (オッズ比: 1.5 - 6) が、女性では増加しなかった。男性では、全体のアルコール消費量に応じてリスクは増加し (22~35杯/週でオッズ比 2.2、95%信頼区間 1.1-4.0) 、 35杯/週またはそれ以上の郡になるとオッズ比 2.6、95%信頼区間 1.3-5.1、p 値 0.04) となった。最も注目すべき結果は、短時間大量飲酒 (OR= 3.5、95%CI= 1.6-7.5) の、一回当たりの飲酒量が増加し (p 値= 0.002) と期間の延長によっても増加した。喫煙を含む完全に調整されたモデルと他の交絡因子では、男性の短期大量飲酒群のオッズは年齢調整後のモデルより高い結果となった。</p> <p>結論： 私たちの詳細な分析結果から PCA の危険因子として過度の飲酒者(暴飲を含む)のサポートを男性に提供する必要があると示唆された。</p>	